

大学生の就職活動プロセスの理解と支援

Understanding and Facilitating Job-hunters' Thinking Processes

庄司 裕子*¹
Hiroko SHOJI

*¹ 中央大学理工学部
Faculty of Science and Engineering, Chuo University

Through an analysis of the log of job-hunting processes by university students, this study has found that their introspection via reviewing the log sometimes helps them discover themselves

1. はじめに

官公庁の発表では景気は上向きになったと言われることが増え、就職状況も多少改善しているようであるが、依然として大学生の就職活動には困難を伴う場合が多い。近年、新卒の大学生や高校生の就職率が低下し、フリーターと呼ばれる若者が増加している。若年層の就職難は社会問題化している状況である。若年人口の減少とも相まって、多くの大学では就職活動の支援や指導に注力し、就職率の高さを売りものにして大学間競争を生き残ろうとする動きが盛んになっている。筆者も大学教員として、就職活動中の学生に間近に接する機会が少なくない。就職難と言われる中でも比較的すぐに内定をもらえる学生もいれば、いつまでも決まらない学生もいる。同じ大学の学生で能力的にも似通っていても、就職活動の結果だけを見ると大きな違いがある。個人の能力差だけの問題とは思えないのである。また、妥協して内定をもらってどうしても納得できずにいる学生もいれば、当初とは異なる目標を見つけて前向きになれる学生もいる。この違いはどこから生まれるのだろうか？何かきっかけを上手に与えることができれば、彼らの就職活動を支援することができるのではないだろうか？元々筆者らは思考プロセスをミクロに観察する研究に取り組んでおり[庄司 01]、個々の学生の活動内容や思考プロセスがどのように異なるのか調べ、見出されたことがらを通して個人に合った就職活動への取組み方や考え方を伝えるきっかけになるかもしれないと考えた。

そこで、まずは学生たちの就職活動の様子をヒアリングして記録をつけてみようということになり、筆者らは2002年の1月から取組みを始めた。2002年の1月からは、第一期の調査として2003年3月卒業予定の学生を対象として就職活動記録を収集し、就職活動中の学生の思考プロセスを分析した。その結果、(1)就職活動中の学生のメンタルワールドにおいて、コンセプト精緻化として特徴づけられるプロセスが観察される場合があること、(2)そのコンセプト精緻化が学生の自己発見(自分探し)へとつながり、就職活動を成功に導く効果があることが見出された[庄司 04]。本稿では、引き続き行なった第二期の調査内容の分析結果に関して報告する。

2. 就職活動の事例収集

この調査の目的は、就職活動中の個々の学生の思考プロセスを観察することである。そのためにまず、学生たちに、就職活動に関する自分の考えを外在化してもらう必要がある。本研究

では、就職活動中の学生に対して個別にヒアリングを行なって発言内容を記録し、その内容を分析している。第二期の調査対象者は2003年1月現在の川村学園女子大学3年生8名で、2002年1月、4月、7月、10月の4回に渡ってヒアリングを行なった。8名のうち5名は、調査期間中(2003年10月まで)にすでに就職先が内定していた。調査対象の学生は人数も選択方法も限られていたことから、統計的な有意性について言明することはできないが、彼女らの挙動や思考をトレースすることによって、同大学の女子学生(あるいは女子学生全般)の就職活動や思考の平均像を知るための参考になるであろう。

調査方法に関しては、第一期では調査対象者の話を聞いて記録するだけのヒアリングを毎回行なうというシンプルなものであった。第二期では、対象者に就職活動の記録(日記)を付けてもらい、ヒアリング中に活動記録を見ながらの思考してもらうことにした。活動の記録は1回目のヒアリングの1ヶ月前から開始し、必要に応じて適宜記録することとした。また、2回目(4月)以降のヒアリング時には前回までのヒアリング内容の記録も用意しておき、対象者は活動記録とともにヒアリング内容も見ながら考えを述べるようにした。第二期の調査におけるこの変更は、活動記録や過去のヒアリング内容を読み返すことによって就職活動でのコンセプト精緻化を促す効果があるという仮説に基づいている。

3. 内省によるコンセプト精緻化の効果

ここでは、収集した8事例のうち、ある調査対象者の事例について紹介する。なお、紙面の都合上、ここで記載するのは記録の一部である。

1. 第1回ヒアリング(2003年1月)

- ・ コンピュータを使う職種につきたい。お客さんと接するSEとか？でも、最近は他の職種でもパソコンくらいは使う。
- ・ まだ、資料請求するくらいで、実際に人に会ったりしていない。だから、最初は日記にも書くことがなくて困った。それで、エントリーシートに書いた内容も日記に入れておくようにした。

2. 第2回ヒアリング(2003年4月)

- ・ エントリーシートもたくさん出したし、セミナーに行ったり、面接も受け出した。我ながら大変で、よく頑張っている。
- ・ 大学ではパソコンが得意なほうだと思っていたが、理系の人と比べるとそれほどでもない実感。とりあえずシスアドの資格は取ろうと思っている。

連絡先: 庄司裕子, 〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27 中央大学理工学部経営システム工学科, Tel: 03-3817-1925, E-mail: hiroko@indsys.chuo-u.ac.jp

- ・面接などで人に会った日は、その人の印象について書いていることが多い。頭にきたことや愚痴が多くて恥ずかしい。
- ・色々な会社用にしたシートを見ていると、受ける会社によって書くことが違っている。向こうが書いて欲しいと思っていることを書いてしまう感じ。受かるためには当然とも思うが、これでいいのかと疑問も感じる。
- ・今後は、受ける会社によって言うことを変えるのではなく、自分の思うことをアピールするようにしたい。

3. 第3回ヒアリング(2003年7月)

- ・その後(第2回ヒアリング後)、エントリーシートや日記に何を書いたらいいのかわからなくなってしまった。今までの日記を読み返すと、キーワードは「コンピュータ」。あとは人の印象が多い。特に「人を育てる」「教える」という語が多い。
- ・コンピュータを使うだけではなく、教育に関する仕事がいいと思った。そのことを5月に受けた会社の面接で言ったら、例えば、インストラクターはどうかと言われて本気になった。
- ・インストラクター狙いで、内定を2つもらっている(5月～6月の間)。

第2回のヒアリングでこの調査対象者は、自分の就職活動記録を読み返して「受ける会社によってエントリーシートに記入することが違っている」と気づき、「エントリーシートには自己アピールや自分のやりたいことを書くべきなのに、どうして書けないのか」と疑問を感じた(図1)。そのことが、自分は何をやりたいのか、自分の適性や強みは何かを意識するきっかけになったのだが、そのコンセプトが不明瞭であったため、一旦、何を書けばいいのかわからなくなってしまった。そこで、再び記録を読み返し、多用されている言葉や話題をチェックしたところ、「コンピュータ」と「人の印象」が重要なトピックだと認識した。そのコンセプトを持った段階で望んだ面接で「インストラクター」という職業を話題とされ、自分の目指すべき職種はインストラクターだと確信するに至った(図2)。その後、インストラクターに絞って就職活動をおこない、早々に希望どおりの内定を得ることができた。

この事例は、就職活動記録という自分の思考を外在化したものを見ることによって、自分自身との対話が促進され、自分自身についてのコンセプト精緻化するなか自己発見につながることを示していると考えられる。

学習や問題解決などの創造的な思考活動を行なう際にインタラクションによる触発が重要な役割を果たすことについては、すでに多数の研究がなされてきている。例えば Schoen は建築家や精神療法士の分析例を通して、プロフェッショナルの思考活動においては自分自身との対話が重要であると述べた[Schoen 83]。そして、スケッチ画や文書のように自分自身の考えを外在化したものを見ることは、自分自身との対話すなわち内省を促すことを示した。また Suwa は、建築家が自分で書いたスケッチとどのようにインタラクションするかを詳細に調べ、スケッチ画とのインタラクションには建築家の再解釈や意外な発見を促す効果があることを見出した[Suwa 98]。本研究で観察された現象は、Schoen や Suwa らをはじめとするプロフェッショナルなタスクを対象とした従来研究で示されてきたのと同様の現象が、大学生の就職行動というノンプロフェッショナルなタスクにおいても成立していることを示唆するものであり、興味深い。

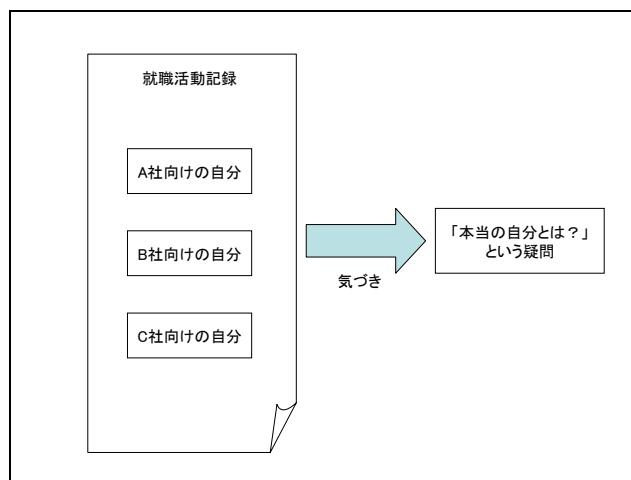


図1: 活動記録を通した内省の効果(1)

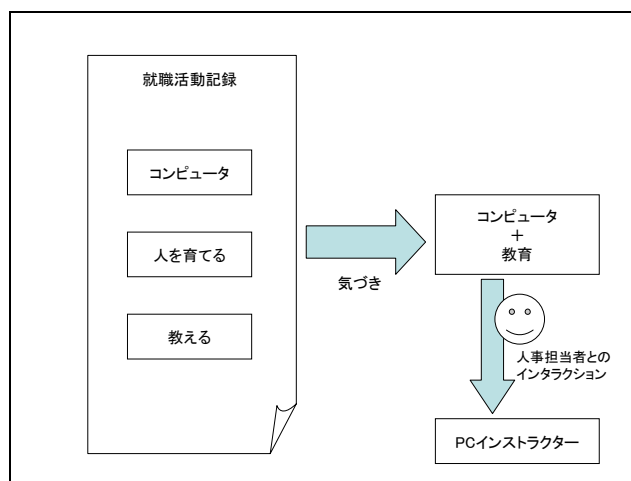


図2: 活動記録を通した内省の効果(2)

4. おわりに

筆者らは女子学生の就職活動事例を収集し、就職活動中の学生の思考プロセスを分析した。その結果、就職活動中の記録を振り返ることは時として自己発見を促す効果があることが見いだされた。今後はより詳細な分析を続けるとともに、就職活動の効果的な自己発見およびコンセプト精緻化支援手法について検討していきたいと考えている。

参考文献

- [Schoen 83] Schoen, D.A., The Reflective Practitioner: How Professional Think in Action, Basic Books, 1983.
- [Suwa 98] Suwa, M., Purcell, T. and Gero, J., Macroscopic analysis of design processes based on a scheme for coding designers' cognitive actions, Design Studies Vol.19, No.4, pp.455-483, 1998.
- [庄司 01] 庄司 裕子, 堀 浩一, オンラインショッピングシステムのインタフェースの向上へ向けて 一実購買行動の分析結果からの示唆, 情報処理学会論文誌, Vol.42, No.6, pp.1387-1400, 2001.
- [庄司 04] 庄司 裕子, 大学生の就職活動におけるコンセプト精緻化の役割, 第18回人工知能学会全国大会, 2004.